

**クイーンズランド大学**

**短期語学研修**

**報告書**

2017

**福島大学国際交流センター**



## クイーンズランド大学短期語学研修参加者

No	所 属	学年	氏 名
1	人間発達文化学類	1	尾 形 遥 香
2	人間発達文化学類	1	横 山 裕 希 乃
3	人間発達文化学類	2	八 鍬 美 穂
4	行政政策学類	1	土 屋 雪 乃
5	行政政策学類	2	高 橋 尚 史
6	行政政策学類	3	伊 藤 靖 臣
7	経済経営学類	2	小 林 諒
8	経済経営学類	2	大 塚 凌 央
9	経済経営学類	2	齋 藤 晃 太
10	経済経営学類	2	石 崎 勇
11	経済経営学類	3	石 川 裕 希
12	経済経営学類	3	依 田 佳 純
13	地域政策科学研究科	2	崔 天 鶴

## クイーンズランド大学語学研修レポート

人間発達文化学類 1年 尾形 遥香

はじめに

私は高校生の中から留学をしてみたいと思っていたので、国際交流センターでこのプログラムの存在を知り、参加することにしました。私はまだ1年生で日本の大学生活にも慣れてきていないし、十分に英語の勉強をできていないと感じていたため悩みましたが、思い切って参加して本当に良かったです。

授業や学校の様子

まず始めにテストを受け、その結果でクラス分けされました。私のクラスは日本人が多かったのですが、ほかに中国と香港と韓国出身の人がいました。中にはオーストラリアで働きながら語学学校に通っている人もいて、年齢も様々でした。授業は平日、2時間の授業が2コマありました。ほとんどグループワークだったのですが、日本語を話すことは禁止されていたので、授業で英語を話す機会が日本よりずっと多かったです。そのため、会話中でよく使われるのに知らなかった英単語や会話表現を知ることができてとても勉強になりました。英語の映画や動画を見せてもらえることも多く、とても楽しい授業でした。授業中に寝ることやケータイの使用については日本の大学よりも厳しく注意されるので、授業に対する意識が変わりました。また、外国人は積極的に発言したり、わからないところはどんどん質問したりしていて、良い刺激を受けました。日本人は控えめになりがちですが、まわりを気にする必要なんてないのだと思うと毎日とても過ごしやすかったです。

午後は授業が無く自由なので、友達と大学内でご飯を食べたり、シティーに行ったり、クラスみんなでBBQをしたりしました。アクティビティもたくさんあり、興味のあるものにはどんどん参加することができました。



←クラスのみなどと

## 物価について

物価は高めですが、服は日本と同じくらいの値段で買えるものもありました。ショッピングセンターやスーパーは売っているものが日本と違ってとても楽しかったです。特にスーパーに売っていた果物がおいしかったです！

## 持ち物

Wi-Fiは、道に迷うのが不安な人や、午後や休日に色々な場所に出かけてみたいと思う人は現地で安くポケットWi-Fiを買うことができますのでおすすめです。

また、私が留学したときオーストラリアは冬～春の気候でしたが、朝は気温が10度前後、昼は20度以上、というように温度差が激しかったので、服装には気をつける必要があります。また、日差しがとても強く、日焼けと目が疲れるのが気になったので日焼け止めとサングラスは持っていた方が良いと思います。

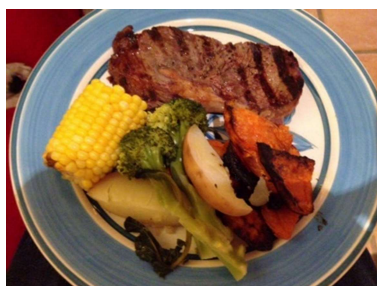
## ホームステイ

私のホームステイ先は、マザーとファザーと小学生の息子さんの3人家族でした。オーストラリアは早寝早起きの習慣があることを知らなかったので、ホームステイ初日は家族が8時頃に寝てしまったことに驚きましたが、私も規則正しい生活をすることができました。

会話についてですが、私は家族に何か質問されても、使われた単語の意味がわからなくて答えられない時があったり、発音がうまくできなくて言いたいことが伝わらない時があったりしました。そのときは簡単に言ってもらったり、スペルを伝えたりしました。電子辞書やノートを使うなどの工夫をして少しでも会話ができるよう努力すれば、英語の上達も早まると思います。

夕食は家族全員で、テレビを見ながら食べていました。ほぼ毎日お肉料理だったので、贅沢でした。また、家族は映画を字幕付きにして見せてくれたり、オーストラリアの有名な動物や、スラング、おすすめの場所などをたくさん教えてくれたりしたので、オーストラリアをより深く楽しむことができました。

私にとって留学したい理由の一つにホームステイをしてみたいから、というのがあったので、実際に体験できて良かったです。



↑夕食

## 休日

休日は動物園、遊園地、ゴールドコースト、シドニーなど多くの場所に行きました。私はホストファミリーから、たくさんの場所を観光すべきだと言われたので、毎週土曜も日曜もずっと遊びっぱなしでした。クラスの外国人の友達や、一緒に留学した福大生の皆さんと出かけることができるとても楽しかったです。



↑シドニーの動物園から見た景色

## 終わりに

この短期留学を通して、もっと英語を勉強したいという気持ちが強まりました。また、私は特にオーストラリアに行きたいと思っていた訳では無かったのですが、オーストラリアは治安もよく、人もフレンドリーで優しくてとても良い場所でした。私は大学までバスで1時間くらいかけて通っていたのですが、運転中に運転手とお客さんが楽しそうに世間話をしているのを見て、日本との違いに驚きました。オーストラリアは本当に多国籍でいろいろな国の人が入っていて、英語があまり話せない人にも慣れているようだったので、海外初心者の私でも安心して生活することができました。留学から帰ってきてしまいましたが、日本でもできることはあると思うので、経験してきたことを忘れないで日々努力していきたいです。

# クイーンズランド大学短期語学研修報告書

人間発達文化学類1年 横山 裕希乃

## ■はじめに

「自分を変えたい」今考えてみれば、私がこのクイーンズランド大学での語学研修に参加した一番大きな理由はこれだったのだと思います。もともと英語が好きだったため、自分の英語は海外で通じるのか知りたい、異文化に触れ、理解したい、という気持ちもありました。しかし、これだけでは参加していなかったかもしれません。新しい環境に飛び込むことが苦手で、すぐに人の後ろに隠れてしまう。なかなか決断できずに結局は機会を逃してしまふ。そんな自分自身を変えるきっかけとなれば・・・そのような思いから、参加を決意しました。初めての海外ということも相まって不安を抱えたまま向かったオーストラリアでしたが、そんな心配をよそに驚くほど充実した5週間になりました。

## ■語学学校での学び

平日はクイーンズランド大学附属英語学校である ICTE に通い、午前中に1コマ2時間の授業を2コマ、計4時間受けていました。私のクラスはほとんどが日本人でしたが、台湾、中国、コロンビアから学びに来ている学生が一人ずついました。授業は主に4,5人に分かれてのグループワークです。4技能をバランス良く向上させられるプログラムが組み、指示を受けるのも相談するのも回答するのも英語、というまさに英語漬けの時間を過ごすことができました。



私はいろいろな国の文化に触れたいと思っていたため、他国の友達と同じグループになれる席に座るようにしていました。その甲斐あってか日本人(私)、台湾人、中国人、コロンビア人という全員が違う国出身のメンバーでグループを作ることも何度かありました。それぞれの国の英語の発音に特徴があって聞き取るのが難しかったり、その国独自の行事や物を説明・理解するのに時間を要したりと大変なことはありましたが、それもまた面白く感じられました。

また、グループワークを進めるため、毎日各班のリーダーを決める必要がありました。具体的にはグループ内で出た考えをまとめ、時にはそれを発表します。私は何かを行う際に先頭切ってまとめるということが苦手です。ましてや使える言語は英語のみ。初めは「私には



荷が重い…」と思いながらも先生に指名されると渋々務めていました。しかし、何回か経験するうちに「これはチャンスなのではないか」と感じられるようになりました。というのも、グループとして一つの結論を導き出すためにはリーダーがきちんと英語を聞きとらなければいけません。気持ちも引き締まり、必然的にリスニング力が鍛えられます。加えてリーダーシップも身につけられるという一石二鳥な役割なので、今では挑戦できて良かったと思っています。



#### ■ホームステイについて

「外国の文化を体験しながら日常生活で使える英語を学びたい」そう考える人にとって、ホームステイはもしかすると学校以上に魅力的な学びの場かもしれません。

私がお世話になったのは、ひとり暮らしの料理上手なマザーのお宅でした。悩みを相談すると必ず前向きな言葉で励ましてくださり、嬉しかったことを話すと自分のことのように喜んでくださる、本当に優しい女性でした。一対一でゆっくりとお話ができるという点も私には合っていて、とても恵まれていたと思います。学校帰りのバスの中で何を話そうか考えたり、福島や日本について説明するために単語やそのものの歴史などを調べたりするのも楽しみの一つでした。

また、週に一度、マザーの息子さんご夫婦のお宅での夕食会にも参加させていただきました。テンポ良く変わる話題に取り残されないよう食らいついていく姿勢が必要で、聞く力を伸ばすという意味では、この時間ほど充実していた時間はありませんでした。

#### ■授業後・休日の過ごし方

授業後は広大なキャンパスを探索したり Indooroopilly という大きなショッピングセンターで買い物を楽しんだりしました。フェリーを利用してシティまで出かけ、Story Bridge という橋の下をくぐったことも良い思い出です。



休日は沢山の場所に出かけましたが、なんと言ってもオーストラリアの自然が印象的でした。Stradbroke Island という島へのツアーに一人で申し込み、日本人がいない環境で過ごしたというのは面白い経験だったと思います（ガイドさんの英語による説明はリスニ



ングの勉強にもなります)。そこでは澄んだ海の中で野生のイルカ・カメを観察することができました。有名な観光地・Gold Coastには泊まりがけで行きました。世界遺産であるSpringbrook National Parkの洞窟に存在する「土ボタル」(ラピュタに出てくる飛行石のモデルになったと言われています)、満天の星空と天の川、野生のカンガルー…全てがキラキラしていて、夢のような時間でした。

### ■ある朝の冒険を通して

オーストラリアと日本の違いとしてバスの乗り降りの仕方が挙げられます。オーストラリアでは、手を挙げてバスに乗りたいという意志を伝え、運転手さんに「Hi!」と挨拶して乗り込みます。降りるときに「Thank you!」と感謝の気持ちを口にすることも含め、とてもすてきな習慣です。一方、少々不便に感じたのは次に通過するバス停のアナウンスがないことです。降りたいバス停が近づいていることを景色で判断する必要があります。なので、乗り過ぎなんていうこともしばしば…。

実際に通学時、乗り換え地点で乗り過ごし、シティまで行ってしまうという大冒険をした日がありました。運転手さんと何回かやりとりをして自分のミスに気づきバスを降りた私。すると運転手さんがわざわざ降りてきて、「次のバス停まで乗っていきなよ！そこでなら乗り換えのバスを捕まえられる！」と教えてくださったのです。その後降りたバス停では、近くの駅員さんに「このバス停をご存知ですか？」と聞いたのですが、そこでは他にお客さんがいたにもかかわらず、「ちょっと待ってね、すぐ調べてあげるから！」というお返事の後丁寧に説明してくださいました。

この話は、実は研修の最後の週の出来事です(最後の最後に学校に行く途中で迷子になるという点にはツッコミを入れたくなりますが…)。研修開始当初であつたら「どうしよう、どうしよう」とオロオロしてパニックになっていたであろうに、5週間後には何の躊躇もなく運転手さんや駅員さんに道を聞き、それどころかピンチを冷静に楽しんでいる自分がいて正直驚きました。それもこれも、オーストラリアの人々がおおらかで寛容だからできたことだと思います。道に迷っても、買いたいものが見つからなくても、助けを求めれば誰かが手をさしのべてくれる、オーストラリアがそんな優しい人で一杯の国だったから、恐れることなく英語を話すことができました。

### ■おわりに

考えることももちろん大事だけれど、考えすぎて身動きがとれなくなってしまったのはもったいない。一步踏み出せば思いがけない出会いやチャンスが転がっている。今回の研



修を通して、そんなことを心の底から思うことができるようになりました。これを今回限りの良い思い出、と終わらせるのではなく、ここをスタートラインとして「思い切ってとびこむ精神」がもたらす効果を忘れずに、これから沢山の事を見て、聞いて、感じていきたいと思えます。

この5週間、「こんなに幸せでいいのかな？」と思うことが何度もありました。大袈裟だと思われるかもしれませんが、不安になるほど本当に本当に幸せだったのです。人の親切さに救われ、優しさに心温まり、自然に癒やされ、オーストラリアという国が大好きになりました。初めての海外渡航でこんなに素敵な国を訪れることができたことに、訪れさせてくれた家族に、感謝しています。

## クイーンズランド大学語学研修レポート

人間発達文化学類2年 八鍬 美穂

### 【はじめに】

私は2017年8月24日から9月30日までの約1か月間、オーストラリアのクイーンズランド大学に短期留学しました。

私は以前から留学しようと考えていたのですが、留学しようと思ったのは、英語の授業で配られたこのプログラムの募集要項がきっかけでした。私は海外に一度も行ったことがなかったので、締め切りぎりぎりまで行くかどうか悩みましたが、家族からの後押しもあり、思い切って参加することにしました。今となっては参加して本当に良かったと思います。というのも、この5週間は本当に素晴らしいものだったからです。

### 【授業について】

授業は、クイーンズランド大学の附属語学学校である ICTE で行われます。そこには世界中からたくさんの方が英語を学びにやってきます。初日に4技能のテストを受け、クラス分けが行われます。クラスは午前と午後に分かれるのですが、私は午前のクラスでした。授業内容はその日によって異なり、Writing だけの日があれば、Speaking と Listening の日もありました。



↑クラスメイトとの写真

授業では、ニュース番組を見たり、クラスの人と英語を使って会話をしたりと、とてもバラエティに富んでいました。一番楽しかったのは、クイーンズランド大学で学んでいるネイティブの学生にインタビューするというものです。生徒が飽きることのないように様々な工夫がなされていると思いました。

### 【ホームステイについて】

私がお世話になったファミリーはマレーシア人でしたが、英語での会話に特に困ることはありませんでした。マザー、シスター、中国人留学生の3人暮らしでした。シスターはクイーンズランド大学の学生で、一緒に学校に行ったり、勉強を教えてもらいました。留学生とも学校の話をしたり、休日に一緒に出掛けたりしました。

ホームステイの良いところは、毎日英語に触れられる点にあると思います。学校の授業はもちろん英語ですが、日本人が多いため、授業が終わるとどうしても日本語で会話をしてし

まいます。ところが、家に帰ると当然英語での会話になるので、Speaking, Listening の練習にもなります。最初は緊張して自分の言いたいことが相手に伝わらずに泣きそうになりましたが、根気強く伝える努力をしました。向こうでは日本と違って、はっきりと伝えなければわかってくれません。話の途中で「あなたは結局何を言いたいの？」とマザーに言われることが多々ありました。わからないことや困っていることはすぐに伝えることが大切だとわかりました。

### 【観光について】

大学の近くにはブリスベンという大きな都市があり、そこで買い物や食事を楽しむことができます。とても都会で、平日でもにぎわっています。また、すぐ近くにサウスバンクという場所があり、人口ビーチや無料で入れる博物館、バーベキュースペースがあり、学校帰りに立ち寄ることもありました。

休日は遠くに出掛けることが多かったです。最初行ったところは、ブリスベンから電車とバスで 2 時間弱のところにあるゴールドコーストという観光地です。ここにはビーチがあり、砂浜で遊んだり、貝殻を見つけたりして楽しみました。近くにはアミューズメントパークもあり、ムービーワールドにも行きました。最後の休日は泊りがけでシドニーに出掛けました。飛行機で 1 時間 30 分ほどかかります。オペラハウスやフィッシュマーケット、タロンガ動物園などに行きましたが、とても楽しかったです。ブリスベンとは違った、落ち着いた都会の雰囲気を味わうことができました。



サウスバンクから見たブリスベン



ゴールドコーストのビーチ

### 【最後に】

冒頭で述べたように、私にとってかけがえのない経験となりました。本当に参加してよかったと思います。英語を実際に使うことで、今の自分の英語力がどの程度なのかを知ることができ、英語に対するモチベーションアップにつながりました。また、海外の文化を知ることができ、少しではありますが異文化理解にもつながったと思います。

もし留学で迷ってる人がいれば、まずこのプログラムをお勧めします。短い期間ですが、とても充実した毎日を送ることができます。必ず「行ってよかった」と思えるプログラムです！このレポートが私のように悩んでいる人の役に少しでもたてたら幸いです。



## クイーンズランド大学短期語学研修を終えて

行政政策学類 1年 土屋 雪乃

私は 8/24~9/31 までの 37 日間、オーストラリアのクイーンズランド大学短期語学研修に参加してきました。この研修期間中、ホームステイをさせていただき、ICTE というクイーンズランド大学に附属している語学学校で英語を学習してきました。拙い文章ではありますがここで報告させていただきます。

### 〈ICTE での授業について〉

まず初めの日にプレースメントテストという英語の 4 技能をはかる実力テストを受けます。この結果でクラス分けが行われ、7 段階あるうちの私はレベル 5 のクラスに配属されました。参加した時期がちょうど日本の大学の夏休みと重なっていたこともあり、日本人が大半かと思っていましたが、私のクラスは日本人とそうでない人で半々くらいの割合でした。国籍も年齢も様々で、コロンビア、サウジアラビア、カザフスタン、中国などから来ている人や大学生から子供をもつ主婦まで多種多様な人たちとともに勉強することができました。

Speaking と listening が主な授業内容で reading と writing の授業が週に 1 日あり、Speaking の授業ではディスカッションやスピーチなど自分の意見や自分の国について話すことが多かったため、自分の国の文化や国際情勢などを考える良いきっかけになりました。また、他の国の文化や考え方、習性などを知ることのできる良い機会でした。初めの 1 週間は、自分のレベルよりも授業のレベルが高くて、先生の言ってることの半分も理解できないような状況でしたが、クラスメイトに助けてもらったり、自分で授業後に聞きに行ったりして、なんとか少しずつついていけるようになりました。1 限の授業が終わった後のブレイクタイムでクラスメイトと仲良くなれたことや、BBQ にみんなで出かけたことは私の大切な思い出です！

### 〈ホームステイについて〉

私のホストファミリーはホストマザー、ホストファザー、子供たち（2 歳、5 歳、8 歳）、犬 1 匹という家族構成でした。ホストファミリーについては出発の 2 週間前くらいにならないと知ることができません。しかし現地の大学が選んでくれる家族なので心配はいらなと思います！

私は初めてのホームステイということもあり、とても緊張していましたが、フレンドリーで日本のことが大好きな温かい家族に迎えられました。平日は大学から帰った後に子供たちと庭で追いかっこをしたり、折り紙をしたりして遊んだり、子供たちが寝たあとにホス

トマザーとファザーとテレビを観たりして過ごしました。テレビを観る際は字幕を付けてもらったり、分からない単語を書き留めておき、あとで聞いたりしてなんとかついていったことを覚えています。

私のホストファミリーは(私のホストファミリーに限らず多くのお家で)寝るのがとても早く、20 時前後には寝てしまっていたので、それまでは自分の部屋にこもらず、彼らが寝静まってから洗濯や授業の予習復習をするようにして、極力家族という時間を減らさないようにしていました。

土日は福大の友達と観光に行く日もありましたが、ほとんどホストファミリーと過ごしました。食事に連れて行ってくれたり、ホストマザーのファザーの家に行ってスケアクローフェスティバルに参加したり、ホストファザーのマザーの家に二泊三日で泊まりに行ったりしました。泊まりに行ったときは、プールに入ったり縄跳びをしたり、イルカに餌をあげに行ったり、テントで寝たり、飼育しているチキンを子供たちと追いかけまわしたり…。会話についていくのは本当に大変だったけれど、伝えたいという想いで話しかければ、きっと最後まで話を聞いてくれると思います。私は毎日拙い英語でしたが自分から話しかけることでたくさんコミュニケーションもできたし、ホストファミリーと仲良く過ごせたのだと信じています。とても幸せな毎日を過ごせて本当に良かったです。

#### 〈観光について〉

先ほども述べたように、私は休日をホストファミリーと過ごすことが多く、そこまで遠出をすることはありませんでした。しかし、平日の大学は午前中で授業が終わるため、午後いろいろなところに行くようにしていました。それだけでも十分に観光地を巡ることができます！おすすめはローンパインコアラサンクチュアリーというオーストラリア固有の動物(コアラ、カンガルー、エミューなど)と触れあうことのできる動物園です。コアラを抱っこしたり、カンガルーに餌をあげたりすることができますし、大学から遠くないところにあるので学校帰りに行くことができます。

また、ストーリーブリッジというシティにある橋を観に行くのもおすすめです。ここはシティから出ているシティホッパーという無料のフェリーに乗って夜に観に行くのが良いと思います。ブリスベンの夜景を満喫できますし、毎日ライトアップの色が変わるので私は5回くらい観に行きました。

#### 〈最後に〉

私が初めてこの研修の説明会に参加させていただいたとき、留学願望はあったものの、まだ1年生だし来年でもいいかなと悩みました。しかし、長い長い2カ月の夏休みを充実したものにしたいと、オーストラリアに行ってみたくて参加を決意しました。研修が終わった今、あのとき参加を決意して本当に良かったと思っています。この短期語学研修を終え、もっと英語を勉強したい、異文化に触れてみたいと思うようになりました。この思いをバネに

さらなる高みを目指して頑張りたいと思います。

最後に、たくさんのサポートをしてくださった国際交流センターの方々や応援してくれた家族には本当に感謝しています。ありがとうございました！



# クイーンズランド大学短期語学研修レポート

行政政策学類2年 高橋 尚史

## ■はじめに

私は、8月24日から9月30日にかけてクイーンズランド大学での短期語学研修に参加しました。海外で言語を学ぶ機会というのはなかなか無く、日本で英語を学ぶのとは全く違いました。生活の中で英語に接し、ネイティブから習うことはたったの5週間とはいえ、英語力を伸ばすのに大きな効果がありました。

## ■大学での英語学習について

大学では始めにテストが行われ、その結果をもとにクラスが決まります。授業は午前中に行われ、その内容は日によってライティング中心、スピーキング中心、リスニング中心、文法中心と変わります。授業初日に受けた文法の授業が簡単と感じたため、全体的に簡単なクラスに振られたのかと思っていたのですが、その後の授業は、非常に勉強になるものが多かったです。

クラスは日本人が多かったため、日本語での会話になってしまうことがしばしばあったので、いかに自分から積極的に英語での対話をしようとするかが大事なことだと思いました。

## ■ホームステイについて

私たちは、ホームステイをしたのですが、ここでは生活で使われる自然な会話を学ぶことができました。始めは、ホストファミリーとの会話は難しく、自分の言いたいことを伝えたり、相手言っていることを聞き取ったりすることがうまくできずに苦労しました。ですが、1週間が過ぎたころから、会話のときに感じていた緊張感と抵抗感が薄れ、少しずつ会話ができるようになりました。

ホストファミリーと話すだけでなく、夕食のときにホストファミリーの会話を聞いているだけでも、十分なリスニングの練習になりました。始めのうちは内容が全く理解できなかったのですが、徐々に分かるようになり、帰る頃には内容が理解できるようになりました。

オーストラリアは水不足のため、洗濯を毎日することはできません。私は週に2度か3度洗濯をして頂きました。

## ■金銭面について

まず、オーストラリアはやや物価が高いように感じました。クレジットカードの利用額をメモして残しておいたのですが、10万円近く使っていて、なおかつ別に持って行った6万

円ほどの現金もほぼすべて使いました。日本より持参した物の不足に気づき現地で購入したり、アクティビティの参加費を払ったりしたため、それくらいの金額を使うことになったと考えています。

ジュースや酒類も日本のものよりずっと高かったり、大学の食堂で昼食を毎日とっていたりしたので、それもまた出費が多くなった原因となりました。昼食や飲み物を自分で用意するなどして、節約すればもう少し出費を抑えられます。

#### ■その他

まず、Wi-Fi についてですが、中心街などで返却不要の1カ月分のポケット Wi-Fi を購入することができます。これは日本円で5000円程度だったので、買っておくといざというときに便利です。また、クイーンズランド大学内や、私の場合、ホストファミリーの家でも使うことができました。国内でポケット Wi-Fi を借りることもできますが、オーストラリアの場合、現地で買った方が安上がりだと思います。

次に、気候についてです。8月の終わりから9月の始めにかけて、朝の7時台は10度前後になり、寒くなるので次回以降参加する方は羽織れる服を一着か二着持っていくといいでしょう。9月は中ごろから急に暖かくなっていたので、半袖の服があってもいいかもしれません。先に言った通り、洗濯をできる回数も限られているので、持っていく服の数も少し多めでいいかもしれません。特にタオルは多く持っていていいかと思います。

#### ■最後に

帰国後、映画館に洋画を見に行ったのですが、映画のセリフを一部聞き取れるようになっていて、留学の成果を実感できました。

正直なところ、5週間の語学研修では大きな成果は得られないと思っていたのですが、日常的に英語を聞いていたため耳が英語になれたようで、短期間でも集中的に勉強することで十分な効果があることが分かりました。

自分から英会話をしよう心がければ心がけるほど、その効果も大きくなるでしょう。更に積極的な態度で臨めばより効果を得られたのではないかと思います、やや後悔はありますが、貴重な経験をすることができたので、大変価値のある研修旅行でした。

## 留学レポート

行政政策学類 3 年 伊藤 靖臣

8/24～9/30 までの 5 週間を学習・日常生活・費用の 3 点に分けて、自分の経験をもとに述べる。

はじめに、学習についてだが、語学研修の名の通り、オーストラリアにあるクイーンズランド大学の中の ICTE という場所で平日英語のみの授業を受ける。曜日ごとにスピーキング、リスニング、ライティング、リーディングとそれぞれ分かれており、クラスによっては特定の曜日だけ教師が異なることがある。実際私のクラスも水曜日だけ普段と異なる先生が授業を行っていた。

授業の内容は、基本的に ICTE のテキストに沿って行われる。文法は中学・高校で学習したものが扱われるが、日本で学んだこととは多少異なることもあり、英語を学ぶ上でかなり有意義な時間であったと私は感じる。また、クイーンズランド大学の学生に一人でインタビューをしに行く授業もあり、刺激的なプログラムであった。また毎日あまり多くはないが課題を出されるため、ホームステイ先でも英語の学習を行うことができる。最後の週にスピーキング、ライティング、リスニングのテストがあり、5 週間で培ったスキルを確認することができる。

次にホームステイ先での生活や放課後、休日の過ごし方について述べる。ホームステイ先のホストファミリーにも良し悪しがあるようで、私のクラスメートも何人かホームステイ先の変更を行っていた。私のホストファミリーはホストマザー、ホストファザー、3 歳のホストブラザーと 1 歳のホストシスターの四人で、みんなとても良い人たちであった。朝ごはんと夜ご飯は必ずホストマザーが用意してくれて、シャワーも私の家は自由に浴びることができた。基本的にホストファミリー側から留学生に干渉することはあまりなく、自分から積極的に会話をしに行くのが会話力のためにも良いと感じた。一方でいくつか困ったこともあり、私の場合、洗濯の回数が少なかったり、自分用のドライヤーがなかったりしたので、多少の不便を感じることもあった。

授業が昼には終わるため、放課後は友達と大きなショッピングセンターに行ったり、city まで出て行ったりと様々



Host mother が作ってくれたタイ風パスタ



なことができる。ICTE 側でもいくつかアクティビティを用意しており、前もって予約すれば、オーストラリアの文化に触れられる様々な活動を行うことができる。休日は、シドニーやモートン島という島に行ったりと有名な観光地にも行くことができた。またバスや電車でゴールドコーストというビーチやドリームワールド、ムービーワールドというテーマパークなどにも行き有意義な休日を過ごすことができた。

最後に滞在中にかかる費用であるが、工夫をすれば生活自体にはあまりお金はかからないと私は感じた。毎日の昼食代が一番お金がかかったが、スーパーで食材を買って自分で昼ご飯を作ったり、大学内で安く食べられるところで済ましたりと、きちんと工夫していればかなり食費は抑えられるだろう。シドニーやモートン島のツアー代などを抜けばオーストラリアでの滞在費は7~8万前後である。

以上が私の留学の体験レポートであるが、きっとこのレポートでは、その楽しさや多くの発見などは10パーセントも伝えることができていないと思う。実際に目で見て、耳で聞いて、色々な人と触れ合うことでその有意義さが初めて伝わると私は思う。ぜひ、このプログラムに参加して、英語力だけでなく、多くの発見や体験をしてほしい。



Sydney にある QueenVictoriaBuilding



クラスメートと AussieBBQ !



人気の Indooropilly で Boost !

## クイーンズランド短期語学研修報告書

経済経営学類2年 小林 諒

私はこの夏、オーストラリアのクイーンズランド大学での短期語学研修に参加しました。このプログラムに参加するのは2度目であり、昨年も5週間クイーンズランド大学で学んでいました。その時に学んだこと感じたこと、そこで出会った人たちと過ごし、共に英語を学んだ時間は夢のようで、もう一度この場所で英語を学びたいと前回の留学直後から思い続けていて、今回も参加することに決めました。

今回の語学研修について、「語学学校での学習」「放課後、休日の過ごし方」「全体の感想、アドバイス」の3点に分けて報告したいと思います。

### 【語学学校での学習】

学校では最初に受けるテストの結果によってレベル分けされた15人程度のクラスで、様々な国から来た人たちと英語の勉強をすることになります。私のクラスは、日本人の他に、中国人・台湾人・タイ人・トルコ人がいました。授業は午前の8時15分から10時15分。30分間の休憩を挟んで、10時45分から12時45分の2回に分かれています。学校から支給される教科書と、先生が持ってくるプリントに沿って授業は進められ、その中のトピックについて英語でディスカッションしたり、文法を学んでいきます。

私が最も印象に残っているのは、クラスの人とペアを組み、クイーンズランド大学の生徒に自分たちが考えた5つの質問をするというものでした。自分の英語が現地の人に伝わるか不安でしたが、実際にやってみると楽しく、交流の輪を広げることができました。学校の先生たちは本当に親切で、わかりやすく指導してくれます。アドバイスも的確で、日々自分の成長を感じることができました。

### 【放課後、休日の過ごし方】

学校で英語を学べるのは月曜日から金曜日、1日4時間だけです。自ら行動して放課後、休日を利用して楽しんで英語を学ばなくてはオーストラリアに行った意味がありません。今回ここではオーストラリア感あふれる私の体験を2つほど紹介します。

1つ目、オーストラリアといえばやはりコアラとカンガルーではないでしょうか？そんな時お勧めなのがローンパインコアラサンクチュアリという場所で、オーストラリアの野生動物と触れ合うことができます。コアラを抱っこできる場所としても有名です。

2つ目、オーストラリアには幾つもの島が存在しますが、その中で値段もお手頃で行きやすいのがモートン島です。ここには大学の友達と行きました。モートン島では砂滑りや、カヤックなど様々なアクティビティーを楽しむことができます。このツアーには世界中の人



が参加しているので、新しい出会いがありますし、コミュニケーション能力の向上にも役立ちました。



#### 【全体の感想、アドバイス】

この留学を通して、行動力・精神力が鍛えられました。日本語が通じない環境で何が起きても自分たちでどうにか解決しなくてはなりません。最初は本当に不安です。しかし1つ1つ問題を解決していくたびに、達成感と楽しさが生まれてきました。どうすればうまくいくか考えて行動するようになりました。オーストラリアに行っていれば、私はただ毎日を何も考えず過ごしていたと思います。

今留学してみたいと思っているけど不安であと一步を踏み出せない人がいたら、ぜひ勇気を出してこのプログラムでも、他のものでもいいので参加してみてください。行ってみれば実際なんとかなります。私自身、特別英語が得意なわけではないですが、2回行って2回とも楽しく充実した生活が送れました。皆さんにもぜひオーストラリアで英語を楽しんでもらいたいです。



## クイーンズランド大学短期語学研修報告書

経済経営学類2年 大塚 凌央

私はネイティブの英語に触れ、英語力を向上させること、様々な国の人と交流することを目的にこのプログラムに参加しました。参加した結果、想像を超えた貴重な経験を得ることができました。

### ■大学について



クイーンズランド大学(以下 UQ)はとにかく大きい大学で構内に多国籍のレストラン、カフェ、様々な種類のショップがあり何か足りないものがあれば、ほぼ構内で手に入ります。また、様々な国籍の方がいるので会話したり、放課後のアクティビティなどで一緒に楽しむことができます。私も日本語で外国人と会話するアクティビティ、サッカー、モートン島という島でのアクティビティに参加しました。

さらに、大きな芝生の広場をはじめ学生がそこでゆっくりと時間を過ごせるような場所もたくさんあります。わたしも芝生で昼寝をするためだけに休日に UQ に来たりもしていました。UQ のスタッフは外国人になれているので分からないことがあれば、教えていただけで安心でした。

日本では絶対に味わえない雰囲気、自由さがあるのでぜひ体験してもらいたいです。

### ■学校生活について

私は家からバス通学でした。電車よりもバスの方が主流かなと感じました。ホストハウスの場所によって変わってきます。着いて少し時間があったらカフェに行ったり買い物したりすることもできました。移動についてもホストファミリーが大学開始の前日に細かく教えてくださったので安心でした。クラスルームに行ったあとは、友達と授業開始までおしゃべりをしていました。

UQ の研修プログラムの授業はレベル別に行われるので英語に自信がなくても着実にレベルアップできます。クラスも多国籍で授業はもちろんのこと、休み時間に異なった言語や文化交流ができ楽しかったです。

私は1～7のレベルの中でレベル4のクラスでした。これは最初にテストが行われ技能を

総合的に判断され分けられます。もちろん授業は英語なので英語で英語のテキストをやるという英語学習にはもってこいの環境です。日本と違い話を聞いているだけでネイティブ先生の発音に慣れることができます。

また、クラスごとに課外活動などが行われる場合があり、外国ならではの自由さを感じることができます。私たちのクラスは先生が持ってきてくれたケーキをみんなで外で食べました。

先述したように様々なアクティビティがあり放課後や休日を使って普段体験できないようなことを体験できまし、大学自体も日本のものとは作りも雰囲気もかなり異なり、大学で出会う人たちもみんな気さくで楽しかったです。



#### ■ ホームステイについて

これについては家庭によって違うと思うので私を受け入れてくれたファミリーについて書きます。私の家庭は 60 歳代の夫婦と一匹の小さい犬の家庭でした。最初のうちは英語に慣れておらず、会話もままならなかった状態でしたが、家で話す機会をたくさん作ってくれて自分の英語が案外通じるということに気づき、自信が持てました。自由な時間のプライバシーも守られていて安心できる環境でした。

食事は様々な国籍の料理を提供してくれました。食事の際もたくさん会話をし、いい家族に受け入れてもらったなと感じました。

事前に連絡をすれば、帰りが遅くなったり、どこかに泊まったりは自由でした。これについてはほとんどの家庭でもそうだと思いますが、そのおかげで学習面とは少し離れた、観光や友達との交流も楽しむことができました。

ファミリーとの会話も英語の勉強になりましたし、日本以外の国で不自由なく過ごせたということはファミリーの外国人に対する理解が深かったからだと思うので本当に感謝しています。



自分で留学を決めたものの出国前はやはり不安でした。しかし多くの方々の協力で帰国時には日本に帰るのが嫌になってしまうほど充実した日々を送ることができました。英語は、プログラムに参加前の自分では考えられないほど向上した気がします。

正直5週間でここまで実感できるとは思っていませんでした。参加して良かったと心の底から感じます。





## クイーンズランド大学短期語学研修報告書

経済経営学類2年 齋藤 晃太

私は夏休みの5週間オーストラリアにあるクイーンズランド大学に短期語学研修へ参加しました。このプログラムに参加しようと思ったきっかけは、漠然と海外に行ってみたく、英語を話してみたいと思っていたことと、国際交流センターにサポートしていただけるからです。また、初めての海外ということで不安もあったので学校に日本人が多くいるということも理由の一つでした。この5週間は本当にたくさんのことを学び、経験できた素晴らしい期間でした。しかし、アクシデントや苦勞したこともありましたのでその話を最初に書きたいと思います。

私が一番苦勞したことはホームステイです。私のホストファミリーは夫婦でしたが、夫が単身赴任で平日にいないので、ほとんどがホストマザーと二人きりでした。ホームステイ初日に車に乗せられた瞬間、容赦なくとても早く長い英語を話され、その時は聞き取れない、わからないという反応すらわからなかったので何もできず、初日に唯一聞き取れたのは「あなたは英語が全然話せないのね」のみでした。それに負けずに積極的に話そうと頑張って話してみたものの、さらに追い打ちをかけるように、何一つ理解してもらえず、すごく嫌な顔を何度もされました。その顔を思い出すだけでとても英語を喋ることが怖くなってしまい、その時はもう帰りたいとすら思いました。なので、出かけることや、帰りが遅くなるなどの連絡はLINEをインストールしてもらい、すべてLINEで伝えていました。家の位置もバス、電車、バスを乗り継いで通学することになりとても遠く大変でした。他の方の報告書にもホストファミリーにどこかに連れて行ってもらったなどということもあると思いますが基本お金儲けでホームステイをしている家がほとんどなのですごく格差が生じます。

学校が始まり、テストをして、クラスが決まりました。クラスは聞いていた通りほとんどが日本人で韓国人、サウジアラビア人、中国人、台湾人が少しいる程度でした。しかし、日本人が多いにしてもみんな積極的に英語を学ぶ姿勢があったのでとても良いクラスでした。授業は午前中だけ行われます。

自分は周りの福大生よりもレベルが低いクラスだったので、リーディングや文法の授業の内容はとても退屈に感じるが多かったです。しかし、スピーキングを鍛えるためにメモを取ることで、ひたすら発言をしました。スピーキングの授業では日常会話の話し方をたくさん学ぶことができました。最初は日本人のペアとスピーキングをして詰まるとすぐ日本語で補足したりしていましたが、慣れてきた頃はなるべく日本人ではない人とペアを作って練習をしました。練習の時間にテーマは出されていましたが、ペアとお互いの国のこ



とや家族のことなどを話したりすることも楽しかったし、話せているということに自信が持ててきました。また、エッセイや英作文の添削も細かくしていただけるので、とてもいい機会だと思い全力で取り組みました。三人の先生が交代で担当してくれるのですがどの先生も丁寧で面白く、何と言っても自分が話したいことを汲み取って理解した上でどのように話すかを教えてくれるので楽しく学ぶことができました。

放課後や週末は、福大から一緒に行った人やクラスの人と、遊園地やビーチに行ったり、買い物をしたりしました。その中でもっとも自分が変わったと思う出来事はモートン島という島に一泊二日のツアーで行ったことです。海や自然がとても綺麗だったということに加えて多くの出会いがあったことが心に残っています。そこで出会った人は私に優しく話しかけてくれ、授業ではないフリーな場で自分の英語が初めて通じた瞬間でもありました。中学生で習うような文法だったり、本当に拙い英語でしたが相手に話したいことが伝わり、会話ができたので本当に嬉しかったです。ここから「もっと自在に英語が喋りたい!」「いろいろな人と喋りたい!」と思えるようになりました。それからは、買い物をした時に店員さんが言っていることがわかったり、ホストマザーと親戚が話していることがなんとなく聞き取れたりと耳が慣れ始めていることが実感できるようになりました。

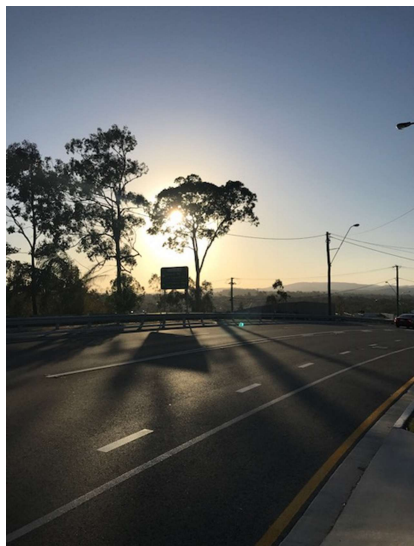
最後に大学とブリスベンの街について書こうと思います。クイーンズランド大学は非常に大きく綺麗な大学です。大学内で毎週マーケットが開かれていたり、月火木に無料で朝食が食べられたり、お昼時間には芝生で多くの人が寝そべって過ごしたりと日本の大学とは違った風景があり、見ているだけでもとても楽しかったです。また街中でも優しい人ばかりで、道に迷った時に尋ねると優しく教えてくれたり、目的地まで一緒に来てくれたりもしました。一番のエピソードはショッピングセンターで財布を落としてしまったことです。日本で財布を落としても帰ってこないこともあるのですが、届けてくださった方がいて中身もそのままの状態で見つかりました。それほど治安もいいところなので、初めての海外にはお勧めします。

短期語学研修前後によく友達などから「5週間なんかで喋れるようにならないよ!」とか「英語喋れるようになった?」と言われます。実際のところ喋るというのは、最初の段階において喋り方を知っているのか知らないのかだと思います。単語は中学高校で習ってきた単語があるし、文法はほとんど関係ないと思います。

語学研修の最初と最後とでは格段に会話ができるようになっていました。会話をしていくうちになんとなく慣れていくのだと思います。研修終盤ではありましたが5ヶ月で日本人だと思えないほどに英語が話せる方と出会いました。そういう出会いも本当に刺激になり、これからどう勉強しようかと考える良い機会になりました。

大変なこともありましたが、誰よりも充実した夏休みであり、また行きたいと思える短期

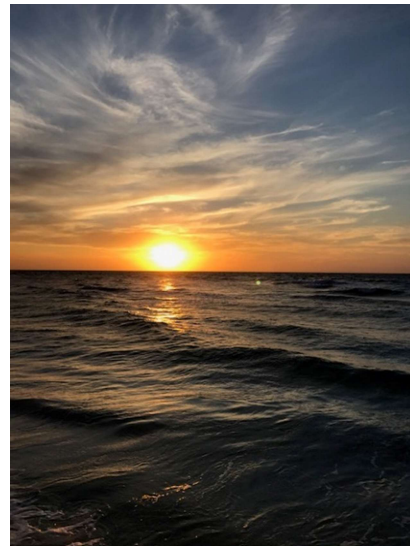
語学研修でした。機会があればまた研修に参加したいと思います。最後に、サポートしていただいた国際交流センターの方々、行かせてくれた両親に感謝して私の報告書としたいと思います。



▲毎日通った通学路の風景  
オーストラリアの季節は冬から春になる時期で、滞在してる間はほとんど雨が降らず雲ひとつない快晴の日ばかりでした。  
しかし日本よりかなり乾燥しているのでリップクリームなどは必需品です。



▲月・火・木曜に大学のボランティアの生徒が無料で配る朝食



▲モートン島の夕日

## UQ 5 週間短期語学研修報告

経済経営学類 2 年 石崎 勇

私は国際交流センターのクイーンズランド大学 ICTE-UQ 短期語学研修プログラムを利用して 8 月 24 日から 9 月 30 日までの約 5 週間オーストラリアに留学した。この 5 週間でたくさんの素晴らしい経験をする事ができた。これから今回の留学から得た経験について述べていく。

まず ICTE-UQ での学びである。ICTE-UQ には世界中から英語を学ぶ学生が集まっており、とても刺激的な環境であった。私が最も強く感じたことは教師陣の質の高さである。英語を使って英語を学ぶといった今まで経験したことのなかった授業形態であったが先生の分かりやすい解説と熱心な姿勢のおかげで理解を深める事ができた。また、私のクラスは特にスピーキングに力を入れた授業であり、日本にはなかなか伸ばすことが難しいと言われるスピーキング能力を向上させる事ができた。最初に受けたスピーキングの試験では自己紹介をすることすらままならなかったが、研修を終えて最後のスピーキングの試験では 8 分間英語だけを用いてペアとディスカッションすることが可能なまでになった。

次にホームステイ生活である。ホームステイ生活の一番の魅力は実際にオーストラリアでの生活について身をもって体感できるということであった。食生活や家の中でのルール、マナーも日本とは異なることが多くて、異文化体験をする事ができた。また、ホストファミリーには仲良くしてもらい週末は野外のマーケットに連れて行ってもらうなどした。ホストファミリーとのきずなも深まり、とてもいい体験ができた。

最後に現地での生活や観光、遊びなどについてである。私たちが滞在したブリスベンには観光の名所が数多くあったことに加え、世界的にも有名なゴールドコースト、サンシャインコースト、モートン島もブリスベンから遠くないところにあったため観光も存分に楽しむ事ができた。なかでもよかったのはモートン島である。私たちは一泊二日での観光のプログラムに参加した。今まで見たことのないような透き通った海、美しい夕日を見ることができたとともに、同じプログラムに参加したほかの国の人たちとも仲良くなる事ができ、一生忘れられない体験となった。

このような経験を通して英語力の向上のみならず、自らの視野を広げるという意味でも非常に貴重な経験となった。今までの人生の中で最も刺激的な 5 週間であったと感じている。また人との出会い、私が過ごす環境を形成する様々なものに対してのありがたみを感じた研修でもあった。この 5 週間で得たことを今後の人生で生かしていきたいと考えている。

## クイーンズランド短期語学研修レポート

経済経営学類3年 石川 裕紀

はじめに

私は8/24~9/30までの5週間、オーストラリアのブリズベン州にある、クイーンズランド大学(UQ)での短期語学研修に参加しました。この研修への参加を決意した動機としては、大学2年生の時に友人と行ったタイ旅行にあります。タイは、様々な国籍の観光客にあふれており、私の友人は英語が堪能なこともあって、たくさんの外国人と友達になり、私にいろいろなことを教えてくれました。そうしたこともあって、私も英語を話せるようになり、世界中に友達をつくれるようになりたい、と思ったことがきっかけでこの語学研修に参加しました。振り返ってみると、この5週間は毎日が初めての連続だった実りのある夏休みであったと思います。



### ◇オーストラリアの生活

・ホームステイ



私を受け入れてくれたホームステイファミリーは子どもが自立し、ゆったりとした生活を送っていたファザー・マザーの2人でした。広い庭、ドラマでしか見たこともないような大きいキッチン、ピザ窯まである素敵な家で、快適な暮らしができました。休日には、夜景の見える丘やレストランへ連れて行ってくれたりと、とても優しいファミ

リーでした。終わってみればそう思えるのですが、初めのうちは文化の違い・コミュニケーション不足などで苦労しました。自分のファミリーの英語はオーストラリア訛りが強く



「これは本当に英語か？」と思うほどに聞き取りができず、話すことがとても億劫でした。分かっていないこともYESと答えてしまうことで、不信感を与えてしまうことも多々あったと思います。しかし、これではダメだと思い自分の要求をはっきり伝えるようにしたところ、自分のファミリーは辛抱強く、ゆっくりと話すなどの工夫をしながらコミュニケーションを取ろうとしてくれました。初めのうちから自分の要求をはっきりと相手に伝えていけば、しっかりとコミュニケーションがとれていたと思うので、わからないことを口に出すことは大切だと思います。

#### ・学校生活

私たちはUQの英語語学学校(通称;ICTE)で、毎週月~金、8:15~12:45までの4時間(休憩30分)英語を集中的に勉強しました。スピーキング、ライティング、リスニング、リーディングの授業がありますが、いずれの授業でも英語で話す時間が多くあり、はじめのうちは自分の趣味でさえもまともに話すことができない自分に腹が立ち、泣きたくなることもありました。しかし、ネイティブの先生が日常会話を重点的に教えてくれるので、そこでインプットをもとに間違いを恐れず積極的にコミュニケーションをとっているうちに、徐々に上達していきました。そして、異国籍のクラスメートと交流することで、多様な考え方や価値観を知ることができたと思います。

#### ・観光

平日の午後はフリーな時間なので、シティに行って映画を見たり留学生の皆とサッカーをして楽しみました。休日はドリームランド、ゴールドコーストへ行き、動物園でコアラを見たり、飛行機でシドニーに行ったりとお金と時間の許す範囲内でオーストラリアを遊び尽くすことができ、充実していました。

#### ◇終わりに

この留学では、いままで勉強してきた英語が無駄ではなかったと認識でき、ただの知識が活きたコミュニケーションツールとなる経験ができました。そしてこれから更に英語を学び、海外で英語を使って仕事をしたいという思いが強くなった、とても有意義なものとなりました。もし参加するか悩んでいる人がいましたら、ぜひ一歩足を踏み出してみてください。

## 留学を終えて

経済経営学類3年 依田 佳純

8月25日から9月30日の約1か月間をクイーンズランド大学で過ごしました。私がこのプログラムに参加しようと思った理由は、大学生活を送る上で現状に満足できず何か新しいことに挑戦したかったということと日本以外の国で生活をして異文化を肌で感じ、視野を広げたかったからです。国際交流センターの方々からアドバイスを頂いたり、体験談を聞いたりして決心が付き参加しました。

私のホームステイ先は、女性と猫一匹で基本的に自由に生活を送らせて頂きました。ホームステイを開始してから最初の週末に虫垂炎を発症し、事前に日本で処方してもらった薬を飲もうとしましたが、意思疎通が上手く出来ず迷惑をかけてしまい、体調管理の大切さが身に染みしました。朝晩の食事は提供してくれるということだったのですが、私のホストファミリーは母国で食べていたものを作るという考えらしく、毎朝ご飯、味噌汁、お茶を出してくれたので非常に嬉しかったです。夜、お互いに時間が空いている時は映画を見に行ったり、近くの日本食レストランで食事をしたりしました。英語での会話は、初めなかなか理解できませんでしたが、徐々に慣れていき英語を勉強するモチベーション向上にも繋がったと思います。



大学では、1クラス約20人のクラスに成績に基づいて振り分けられ、私のクラスにはペルーや台湾、ベトナム、日本人の多さに驚きました。クラスは年齢層が幅広くいて、先生も入れて愉快的な人々が多く、毎日楽しく通いました。加えて、お互いの言語を教えあったり、食事や遊びに行ったりと楽しむ中にも今まで知らなかった文化の違いを勉強できて貴重な時間を過ごすことができました。

このプログラムに参加して、自分から積極的に行動したり、異文化を受け入れ柔軟に対応したりすることの重要性を学び、多国籍の人々との出会いや現地での生活は自分にとって良い刺激になりました。英語をさらに勉強して移住するという夢を叶えたいと思います。



## 研修日程

8/24(木)	20:50 成田発	
8/25(金)	06:55 ブリズベン着	IStay River City 泊
8/26(土)	フリー	IStay River City 泊
8/27(日)	ホームステイ先へ移動	
8/28(月)	語学研修	
9/29(金)		
9/30(土)	10:55 ブリズベン発 19:10 成田着	

Tuition (5 weeks)	AUD\$	1,625.00
Student Services & Materials Fee (Weekly) 2017	AUD\$	50.00
Homestay – Accommodation (\$250 Weekly) Fee 2017	AUD\$	1,250.00
Airport Reception BNE (Group) (Return) 2017	AUD\$	140.00
<b>Total Payment Period 1 Fees:</b>	<b>AUD\$</b>	<b>3,065.00</b>

2017 年度 キーンズランド大学短期語学研修 (夏季) 説明要旨
-----------------------------------

- 日 程：2017 年 8 月 24 日 (木) ～9 月 30 日(土)
  - 【現地研修期間：2017 年 8 月 28 日 (木) ～9 月 29 日(金)】
- 場 所：キーンズランド大学  
(オーストラリア連邦・キーンズランド州・ブリスベン)
- 対 象：全学部・全学類・全研究科 学生対象
- 内 容：語学研修、ホームステイ
- 費 用：約 40 万円 (航空運賃、現地授業料、ホームステイ代などを含む) 日本国内の交通費、海外旅行保険代、昼食代は別途。
- 奨学金：日本学生支援機構の奨学金プログラムの採択により、最大 14 名に一人当たり 14 万円の奨学金が交付される。
  - ※受給要件
  - 研修前後に学内実施の TOFEL ITP テストを受験する。
  - 現地で福島についてのプレゼンテーション発表をする。
- 単 位：学類生は 2 単位まで単位が認定される。
  - ※日本学生支援機構奨学金受給者は単位認定が必須。
- 留意点：パスポートの申請及び有効期間、研修費支払い方法について
-

